

留学生候補者の紹介

ルワンダの PIASS(プロテスタント人文・社会科学大学)の日本人講師(佐々木和之氏)が候補学生二人を紹介してくれました。二人は、PIASS の選考委員会で選ばれた優秀な学生であり、是非東京外大に迎えたいと考えています。

皆さまこんにちは。

コロナウィルス感染症で深刻な状況の中におられる日本の皆さまが 1 日も早く危機的な状況を乗り越えられますようにお祈りしています。このような状況の中においても、ルワンダからの若者たちに東京外大で学ぶ機会を与えようとの皆さまのご厚意に心より感謝申し上げます。

今回の留学プログラムには、PIASS の開発学部にも所属する成績最優秀の学生たちが応募します。ジュスタスとアンリの二人です。二人は成績の優秀さはもちろんのこと、日本留学にとっても強い熱意を持ち、その動機がしっかりしていることから、学内の選考委員会が本学を代表するに相応しい候補者として選んだ若者たちです。



アンリ・ファブリス・ンダイゼイエさん (左) と ジュスタス・テンボさん (右)

(1) ジュスタスは本学にとって初めてのウガンダからの留学生です。NGO の平和構築プロジェクトで若者への教育活動等に従事した経験にもとづき、平和構築を専門的に学びたいとの熱意を持って平和紛争研究科に奨学生として入学しました。とても落ち着いていますが、ユーモアのセンスがあるため、学生たちのムードメーカー的存在です。面倒見が良いために学生たちからの信頼が厚く、昨年からは PIASS 留学生協会の代表を務めています。

(2) アンリはブルンジ出身ですが、2015 年の政治危機の折に家族と一緒に国境を越えて難民となり、ルワンダ南東部の難民キャンプで生活しながら近くの高校に通いました。ルワンダに来るまでフランス語で教育を受けていましたが、高校 3 年間猛勉強をして優秀な成績で卒業し、平和紛争研究科に奨学生として入学しました。大学入学後は、ルワンダで難民として暮らす中高生の奨学金申請を支援する活動に取り組み、大学卒業後も、難民の子どもたち・若者たちがより良い教育を受けていけるように働きたいと語っています。

二人とも私が自信を持って推薦する学生たちです。彼らの留学の実現のために皆さまのご協力をお願い申し上げます。



第2弾！ 紛争を乗り越えて。 ルワンダの大学から留学生を招こう

復興大国、日本で平和紛争学を学びたい
アフリカの若者たちに渡航費の支援を！

1994年に虐殺（ジェノサイド）の起こったアフリカの小国、ルワンダ。首都キガリから少し離れた緑豊かな町フエにあるプロテスタント人文・社会科学大学（PIASS）には、平和紛争学を学ぶ若者がアフリカ各国を含む世界中から集まります。そして日本人講師や日本人学生との交流を通じ、日本に高い関心をもつアフリカ人学生が多数いるのです。しかし、彼らの留学を阻むのは経済的問題。たとえ奨学金で生活費をまかなえても、渡航費はみずから捻出しなければならないためです。

そこで、現代アフリカ地域研究センターでは、高い志をもつ彼らの夢の実現を手助けするため、クラウドファンディング・プロジェクトを立ち上げました。学ぶことに貪欲な彼らが東京外国語大学で10か月間、交換留学生として学べるよう、皆さまのお力をお貸しください！

目標金額：100万円

実施期間：2020年4月15日～5月31日

<https://readyfor.jp/projects/asc-piass2020>



お問い合わせ先

東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター

住所：〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1 研究講義棟4F 401E2号室

TEL：042-330-5540 FAX：042-330-5884

e-mail：africanstudies-center@tufs.ac.jp

上の写真はPIASSから2019年に来日し現在東京外大に留学中のオクタブさんとヘレンさん